

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2772401010		
法人名	社会福祉法人 聖徳園		
事業所名	グループホーム敬愛		
所在地	大阪府 枚方市香里ヶ丘8丁目1番地		
自己評価作成日	令和4年9月16日	評価結果市町村受理日	令和4年12月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪府中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和4年10月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍で外出支援が出来ませんでしたが、施設内では四季折々の行事の企画し充実させ、昨年は利用者の誕生日月に料理をリクエストして頂き、ご家族と一緒に召し上がって頂くと言う品質目標も実施し、2名のご家族に参加して頂く事が出来ました。今年の品質目標は行事の写真を見て頂く日を設定し、回想して頂き利用者皆さんと職員とで和やかな時間を作っています。職員は利用者の出来る事を見出し、日々潤いのある生活をして頂けるよう工夫しています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、介護保険制度が始まって直ぐに開設されたグループホームである。利用者は介護度1と2合わせて86%と非常に元気で、明るい。広い中庭があり、各居室から自由に入りができる。中庭には桜の木が2本植えられていて、花見やバーベキューパーティーが出来るし、お茶会も時々する憩いの場となっている。閉塞感も全くない、理想的な事業所である。センター長や事業所の管理者をはじめ職員は、独自のアンケートを行い利用者家族等の意見に常に耳を傾けている。介護職員全員が介護福祉士の資格を持ち、利用者一人一人に寄り添いながらケアプランを実施している。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の業務で必ず立ち寄る事務所に掲示すると共に、月に一度開催する職員会議では改めて各自確認する為に唱和を行い意識づけている。又、年間目標として設定している品質目標については理念に基づいて作成を行っている。	法人の理念「地域に目を向け福祉の係わりを見つけ取り組みます」等、三項目の他に事業所独自の品質目標「日々の出来事がなかなか心に残らず、思い返す機会もないことから、回想していただくことも含め、日々の生活を楽しく元気に過ごして頂く。」を立てている。それを掲示すると共に職員手帳に記載し常に確認しながら実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2か月に1度の運営推進会議には地域代表の方も参加頂いている。又近隣の小学校の行事(夏祭り、文化祭)にもご招待を受け積極的に参加したがコロナ禍の為中止が続いている。今後、再開すれば前向きに参加を検討したい。文化祭では利用者の作成された作品を展示していただきいつも高い評価を頂いていた。	地域との付き合いは、まだまだコロナ禍のため殆ど実現できていないが、小学校の文化祭は3年ぶりで開催され、利用者の貼り絵や塗り絵等が展示され評価を得ていた。現在は系列事業所の厨房へ昼食や夕食の受け取りに行き、厨房の職員と挨拶する程度であるが、今後コロナが落ち着き次第日常的な交流を取り戻すよう努力している。	事業所の設立は介護保険制度の始まった2000年ではあるが、近隣との付き合いも前向きに進め、非常時の際どういう事で世話になるか分からない。地域の組織との関りを深められるよう努力して欲しい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ前は地域スーパー等と一緒に買い物に出掛け、コミュニケーションを通じて地域住民の理解を深め、オレンジカフェ参加の際にはティータイムの準備などを実践していた。感染が減少すれば買い物等再開したい。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月間の利用者のご様子を伝え、その間に実践した行事の説明を行う。また一人一人のご意見を伺い、報告書としてまとめ当日欠席された方には後日来園の際に配布している。運営推進会議が開催されない場合は電話にてご意見を頂戴している。	運営推進会議は、利用者家族、地域包括支援センター職員、民生委員、事業所職員が参加して隔月に行われている。会議は、事業所の活動報告、事故報告、お知らせ、等があり、各委員、利用者家族等から意見要望が出されている。利用者家族等の意見要望は、ケアプラン等にも活かされている。議事録は、関係者及び全家族に送付している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	「枚方市高齢者等徘徊SOSネットワーク」捜査協力を行っている。	枚方市の健康福祉部、福祉指導監査課等関係窓口へは、折に触れメールあるいは電話等にて指導を受けている。また、市健康福祉総合相談課の「徘徊高齢者SOSネットワーク事業」に捜査協力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体の方針とし、身体拘束をしない方針を明確にしている(職員手帳に明記)。意識を高めるために年に2度人権、身体拘束等の研修を行っている。	身体拘束等適正化委員会を3ヶ月に1度、構成員を定め定期的に開催している。適正化のための指針は法人で作成し、職員が理解し易いように基本方針、やむを得ず拘束する場合の対応等を記述している。研修会は年に2度、スピーチロック等テーマを決め実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マスコミに取り上げられた内容については職員間で共有し、年に2度研修も行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要性に応じて内容を確認し、理解を深めるようにしている。又、状況によってはご家族に提案することもある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には時間をかけて面談し、説明を行い、納得されたうえで署名をしてもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議ではご家族のご意見を伺う時間を設けているが、なかなか本音は聞けないので年度末にアンケート配布し、無記名で提出してもらい、後日他の家族にも内容をまとめたものを配布している。その中で改善すべき内容、要望があった時は職員間で話し合い検討している。	運営推進会議には、殆どの家族が参加して意見を述べ合っている。他にプライバシーの配慮について、ケアプランについて等の意見を独自のアンケート形式で求めている。その意見を職員会議で話し合い、これからの運営に活かしたり、ケアプランにも活かすようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議では各職員の意見を確認し、又、当日欠席者については前もって意見、提案の有無の確認を行っている。 また「業務改善提案書」を目の届くところに置き、いつでも記載できるようにしている。	月に一度、職員会議が行われている。提案内容は、普段から業務改善内容を考え、直ぐに記入できるように提案用紙が置かれている。 今まで一年を通して行事の写真を廊下に、流しそうめん・月見・バーベキューパーティー・クリスマスパーティー等が見事にレイアウトして飾られている。これも職員の提案で、取り入れられたものである。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表を作成するにあたり、10日までに希望休を聞き、希望に添えるよう勤務表の作成に取り組んでいる。年2回(6月・12月)人事考課を行った後フィードバック面接を行い、各職員の思いを確認している。リーダーの役職(ポスト)を設け、よりやりがいを感じてもらえるように取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務表を作成するにあたり、10日までに希望休を聞き、希望に添えるよう勤務表の作成に取り組んでいる。年2回(6月・12月)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大阪府グループホーム協議会からの連絡内容の把握、研修案内については必要に応じて参加している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の生活状況をしっかり把握し、不安要素を取り除けるようにアセスメントを行い、生活の基盤を設定できるよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用の契約の際には普段のご様子を詳細に伺い、こちらの方針等、充分に説明しご理解を得たうえで契約の締結を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の意見を伺い、アセスメントを行い、暫定のプランを立てたうえでご家族にも目を通してもらい、納得してもらったうえでサービスの提供を始めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	月に1度のカンファレンスにおいては現状況を振り返り、新たな提案も含めより利用者に添った介護が行えるよう示唆し、ご家族来園の際にはこちらから現状報告と、ご家族からの意見も聞くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の生活の変化は、来園時や、電話、毎月配布のえがお通信にてお知らせしている。R3品質目標としてお誕生日にご家族と一緒に食事をして頂く事を設定しましたがコロナ緊急事態宣言で面会が中止となり2名のみの実施となりましたがご家族、利用者共に喜んで頂けました。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	常に利用者の思いを大切に気持ちを理解するよう努めている。また、ご家族からの電話には本人に取り次いでお話して頂く事もある。	コロナ禍以前は、今まで関わってきた地域社会との関係を継続して行くため、馴染みの店へ買い物に出掛けたり、馴染みの美容院に行くなど、家族の協力を得ながら支援に努めていた。現在は利用者の思い出の場所まで、車で行ってみたい、馴染みの人に電話するなどして、これまでの関係が途切れないように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中でトラブル等が生じることが無いよう、常に配慮し、時には気分転換に席替えを行う等考慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同じ法人内の特養に移られた利用者についてお会いできた時はその都度声掛けを行い、近況を確認している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス計画書更新の際にはご本人家族の意見を確認したうえで少しでも希望に添えるケアが出来るよう努めている。	自分で意向や要望の伝えられる利用者は日常の会話や、入浴等でゆったりとした気分になった時に聞くことが多い。自分で伝えられない利用者には家族から生活歴を聞き、関わる中で顔の表情を見ながらこう思っているのではないかと推察しながら、思いや意向を把握している。利用者から得た思いは生活記録に記載し職員で情報共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前面談でご家族から詳しく情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々健康状態、特に排便状況などの引継ぎを丹念に行い便薬の量などの調整や健康管理を行っている。 朝：夜勤者→早出・日勤 夕：日勤→夜勤		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1か月に1度のカンファレンス、3か月に1度のモニタリングを職員、ケアマネで行い対応の振り返り、改善に努めている。	通常は月々ケアカンファレンスを行い、モニタリングでチェックをし、日々の支援経過を見ながら6ヶ月毎に介護計画を見直している。変化が生じた時には、家族の承諾を得た上で臨機応変に見直しを行っている。家族には、毎年事業所独自のアンケートを作成し、介護計画について意見を求めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ほのぼののソフトを使用し、職員全員が統一した記録が行えるように徹底している。又、出勤時には必ず日誌、引き継ノートの確認、捺印することを義務付けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて医療関係の相談、情報の提供を行うことでご家族に安心感を提供している。サービスの提供中半で状況が変わった際には速やかにカンファレンスを行い計画書の変更を報告、確認している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の医療機関から訪問診療を利用されている方もいらっしゃる。又、2か月に1度の運営推進会議には地域からも出席してもらい、ホームの現状を報告している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療については法人の訪問看護師に相談することも含め、ご家族の意見、希望を優先的に配慮している。 受診についてはご本人、ご家族の意見を尊重し助言も行い、希望される医療の提供を行っている。	今までのかかりつけ医への外部受診には、眼科、皮膚科に通院している利用者があり家族が同行している。協力医療機関から内科が月1回の往診があり、歯科はトラブル時に、希望者が訪問診療を受けている。訪問看護師が週1回訪問して、健康管理や薬の調整がなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度訪問看護が来園するのでその際には利用者の状況を詳しく報告し、指示を受けたこと、助言いただいたことは全職員に周知徹底している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際には情報提供を行い、病院側のケースワークとも密な連絡を取り合いながら退院についてはご家族の意向も考慮し、早期退院、受け入れに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在浴室の設備に機械浴がないため基本、湯船に自力又は一部介助で入れなくなった時点でご家族には特養などへの移行も打診している。終末ケアに向けての援助も行い、又ご相談に応じさせていただいている。今年6月にターミナルケアの研修を行い、職員の意識、対応の見直しも行っていく方向でもある。	契約時に「看取りに関する指針」「終末期の看取りについて」の事前確認書を示して説明を行い、同意の捺印を貰っている。その後、身体の変化により終末期に入ったとの医師の判断のもとに、再度家族には特別養護老人ホーム、病院等の選択肢があることの説明を行い、意思決定を促している。今期看取りの実績は、今のところはない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応のシュミレーション等研修も含めて行っている。救急車要請手順を事務所の見えやすい所に貼り対応がスムーズに行えるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回全体の消防訓練を行っている。避難場所については消防署の指導も受けている。	法定の年に2回の消防訓練は、夜勤者を中心に夜間想定に基づき利用者が参加して行われた。またテレビで高齢者住宅で火災が発生のニュースがあると臨時訓練を自主的に行い、安心に繋げている。水・食料(パン・スパゲッティ)コンロ、懐中電灯が3日分備蓄されている。5分圏内に法人の特別養護老人ホームがあり、連携が取られている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報・プライバシー保護、人権擁護の研修は毎年行い、重要性を各職員で振り返り周知徹底を行っている。	年間研修計画の基に、各種研修はきっちり行われている。利用者への呼びかけは、さん呼び、言葉かけは利用者に判断して貰う開かれた問いかけをするように気を付けている。職員はキャリアの長い人が多く、言葉かけや対応には安心感がみられた。重要書類は鍵付きの書庫に保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	サービス計画書作成時には意思表示できる方については希望、意見の確認を行い、日々の生活においては毎朝オリエンテーションを行う中でそれぞれの様子を観察し、コミュニケーションを図っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各利用者の生活歴を把握することで趣味や好みを日々の生活に取り入れ、生活の満足度を高められるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣替えの時期にはご家族に馴染の衣類を持ってきて頂いています。散髪は訪問理容を利用されています。又、入浴日には顔そりも行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	月曜日の昼、金曜日の夕はホームで調理を行い、利用者の嗜好を考慮した献立を立てている。調理の補助は調理が無理な方についてはテーブルを拭いてもらうなど一緒に作業してもらう機会を設けている。	法人の特別養護老人ホームの厨房で調理された料理が週5日配達され、事業所では週2回利用者のリクエスト食を聞いて手作りしている。季節の行事食では、おせち、お鍋、時には中庭でバーベキュー、イベント食やおやつレク（6月にスイーツバイキング）を行い、利用者は包丁を使える人（2名）、テーブルふき等に参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量については各利用者の要望、状態に応じ、量や内容に考慮している。水分については食事の際のお茶の摂取以外に朝の10時・午後の3時には水分補給を促し、又、入浴後にはコップ1杯のアクエリアスを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日3回食後に、義歯も外して頂き、歯磨きを行っている。デンタルリンス入りのカップでうがいを促し、(飲まれる方にはお水で)、口腔内の清潔維持に努めている。ご自分で出来る方については声掛けを行っている。就寝前には義歯をお預かりし洗浄を行い明朝に返却している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間の誘導も含め排泄はトイレで行ってもらい、状況を見ながら定時誘導を行っている。排泄の回数を詳細に記録することで、一人一人の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を促している。	一人ひとりの排泄パターンにより、トイレ誘導がおこなわれている。自立の利用者が多く、布パンツにパット(4名、)リハビリパンツにパット(2名)、おむつ(1名)等、声掛けを工夫して自立に向けた支援体制がある。夜3時間ごとの見回りだが、自分で起き上がってトイレに行く利用者もあり、安眠重視の支援体制がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人排便状況を詳細にチェックし毎朝状況の引継ぎを行い、出勤者で便薬の調整を行っている。又、排便を促す飲み物やヨーグルトの飲用など調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週3回の実施であるが状況に応じて入浴を実施することもある。入浴についてはご本人の要望に添い体調を考慮しながらゆっくり入ってもらっている。	入浴は基本週3回(火、木、土)の午後にかけて流し湯で行われている。浴槽は深く2人介助もほぼ無いので、跨げなくなったら法人の特別養護老人ホームの話をしている。楽しむ工夫として季節によりゆず、菖蒲湯を楽しみ、音楽を掛けることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室に戻っていただくのは自由であり、特に制限はしていない。昼食後は午睡の時間を設け居室にて1時間ほど過ごして頂いています。休まれる方、本やテレビをご覧になられたりとゆっくりとした時間を過ごして頂いています。 夜間の巡回は個人の睡眠時間、体調を考慮し、間隔を決めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の依頼から調整、投薬は全て職員で行う為、しっかりと確認しながら行っている。服薬セットの確認も重複して行っている。又、便薬については日々状況の引継ぎを細目に行い量の調整などを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者のレベルに合わせて調理補助、洗濯物たたみ、居室の掃除などの役割を担ってもらい、余暇活動として趣味などを活用し、編み物、塗り絵、クロスワードパズル等を行い過ごしていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の食事の受け取りには短距離ではあるが気分転換にドライブとしてホームまで一緒に出掛けている。天気に応じて外気浴支援として散歩して頂いて居ます。	コロナ禍の中で、現在中庭では桜の季節には大きな2本の桜の樹の下での花見、3時のおやつ、バーベキューを行う等、中庭が大きな役割を果たしている。駐車場で外気浴、お寺の訪問、また地域の情報を得て文化祭への作品展示を行った。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	状況に合わせ、また利用者の理解度に合わせて支援させていただいている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	状況に合わせ、また利用者の理解度に合わせて支援させていただいている。	共用のリビングルームからは気軽に中庭に出ることで、季節感を採り入れ易く、気分転換が可能である。2人掛けソファが2脚、空気清浄器、加湿器が備えられ、ペットの犬が利用者に癒しを与える役割を果たして、居心地よく穏やかな時間が過ぎていることがうかがえた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中ほとんどの方がリビングで過ごされるが自由に行動できるよう配慮している。席の配置も考慮し、快適に過ごしてもらえるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者のレベルに合わせて調理補助、洗濯物たたみ、居室の掃除などの役割を担ってもらい、余暇活動として趣味などを活用し、編み物、塗り絵、クロスワードパズル等を行い過ごしていただいている。	ベッド、洗面台、防災カーテン、クローゼット、ローチェスト、寝具等が備付けられ、利用者は椅子、タンス、家族の写真等使い慣れた物を家族と相談して思い思いに持ち込み、居心地よく過ごせる工夫がみられた。全居室から春には桜の花見が出来る。掃除は利用者と職員とで毎日行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援を促す為に、レベルに応じて必要最低限の提示等を行い、安全かつ快適に過ごしてもらえるよう配慮している。		